

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172300168		
法人名	株式会社 おあしす		
事業所名	グループホーム おあしす養老		
所在地	岐阜県養老郡養老町京ケ脇1609-10		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2172300168-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人に精神的、身体的状態を把握し、それに対応した最善の介護サービスを提供しています。養老公園に隣接し春は桜、冬は紅葉、四季折々の移り変わりが感じられ、天気の良い日は外で食事もします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経年による重度化や高齢化が進み車椅子生活の利用者が多く笑顔が少なくなっていく中、利用者に楽しく笑ってもらえるように声かけをしている。日常生活においても3人で排泄介助を行ったり、毎日の入浴支援を行うなど希望にそった快適な暮らしの支援に取り組んでいる。ユーチューブを活用して懐かしのドラマを楽しんだり、洗濯物たたみや食事の準備など出来ることを見つけて一緒にいき、感謝の気持ちを伝え張り合いになるよう支援している。管理者は、職員の不満やストレスが、介護の質の低下や虐待行為の原因に繋がるとの思いがあり、人手不足や仕事の内容に負荷が多い時は、コインランドリーの利用や昼食を出前に変更して負担を軽くし、ストレスを抱えないよう配慮している。残業なしで休暇取得の希望を叶え不満のない働きやすい環境の職場づくりに努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの身体的精神的状態を把握し、それに対応した最善の介護サービスを提供しますという理念に基づき実践につなげている	職員は、高齢化や重度化が顕著な中で日々の生活やミーティングなどで利用者の状況を把握し、共有しながら利用者個々に寄り添う支援を続けている。心身の些細な変化を見逃さず早めの対処で、利用者の苦痛や重度化の軽減に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ下で積極的には行われていない	散歩や神社行事に出かけた時に地域の方と挨拶をしている。管理者は、清掃活動などの地域行事に参加して事業所の状況を話したり、介護相談を受けたりしている。コロナ以前は、ゴキブリ団子作りやバーベキューに事業所内敷地を提供した事もあり、今後復活することを期待している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ下で積極的には行われていない	地域行事や医師の訪問時の機会に運営推進会議を開催して事業所の状況を報告しているが、不定期の開催で毎回行政の参加が得られていない。	行政・地域や家族の代表者の参加メンバーが揃った会議を定期的に開催し、報告だけにとどまらず、参加者からの意見など話し合った結果をサービスに活かすことが出来る会議を期待する。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度介護認定審査員として役所とのつながりがある	管理者が介護認定審査委員であり、行政とは話しやすい関係を築き、対面や電話で相談をしている。自家発電機設置のための補助金申請の指導・助言受け申請が通り設置することになった。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束についてチェックしている	身体拘束は行っていない。利用者が不快と感じる言葉かけや対応をしないよう心がけ、職員同士の会話も常に気を付けている。座位の保持が難しい利用者の車椅子利用も会議で検討し工夫を重ねながら支援している。会議に合わせて適正委員会や職員研修を行っているが、記録の確認ができなかった。	委員会の議事録及び研修記録の作成が望まれる。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度虐待についてチェックしている	職員は、虐待行為(暴力・暴言や無視・嫌がらせなど)を理解して日々のケアに取り組んでいる。管理者は、虐待行為となる原因は職場への不満やストレスからと考え、不満やストレスを溜めないように働きやすい環境の職場づくりに努めている。	

グループホームおあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人は100%親族でそれに基づき行われている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をもうけここに説明している		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望を聞きできる限り要望に沿えるよう努力している	利用者の要望は状況を見極めながら、家族の了解を得て飲酒・入浴回数・買い物など可能な限り対応している。家族とは話しやすい関係を築き、訪問時や電話で利用者の様子を知らせて意見を聞いている。家族の要望から利用者の出来る家事を一緒に行い生活リハビリにも繋がった。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々および月に1度の会議で反映させている	管理者は、利用者・職員を大きな一つの家族と捉え職員が、提案や要望など言いやすい関係を築いている。引継ぎや会議時の要望や提案を全員で検討したり、内容によっては直ぐに対応するなど職員の意見など取り入れている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の家庭・身体的な要望を聞き取り入れている。休日の希望はほぼ100%聞き入れている	管理者(代表者)は、現場の一員として働き職員の努力や悩みを把握している。職員の家庭事情や身体状況も把握し、年1回の7連休取得や希望休を優先しながら勤務表を作り、業務が忙しい時は、洗濯をコインランドリーに変更したり、食事を出前にしたりして職員の疲労やストレスの軽減に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の会議で行っている	管理者(代表者)は、疑問に思う事や新しい情報などをインターネットで調べ研修の資料にして、職員の資質向上を図っている。また、資格取得や更新・職員が希望する研修参加には、勤務扱いで費用負担も行っている。	

グループホームおあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ下で積極的には行われていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはお願いして手伝ってもらっている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に状況に合わせて行っている	利用者の笑顔がある暮らしを心がけ、その人その人に合う言葉かけをしながら希望や意向の把握に努めている。表情などから把握することもある。毎日の入浴や飲酒などの希望に応えている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度介護計画を見直している。その中に本人や家族の希望を落とし込んでいる	日々の記録や職員・家族・医師の意見、モニタリングを基に介護計画を作成している。ケアマネも介護現場の一員で、常に利用者の状況を把握している。状態に変化がある時は、見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々詳細に記録を取り、状況の変化に対応している。バイタルの変化など常にチェックして早めに受診を行っている	職員は、日々利用者と接する中で些細な表情や言動などの気づきも個別記録に残し、状態変化時の早めの対応に繋げている。記録の情報は職員間で共有し介護計画の見直し時のモニタリングにも活用している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や商品購入など機能的に取り組んでいる	利用者の要望に応じて行きつけの床屋や買い物に付き添っている。孫の結婚式や親族の葬儀などに必要な支援をした事がある。地域住民の介護相談を受けたり、通院支援をしたりして事業所のサービスの多機能化に取り組んでいる。	

グループホームおあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ下で積極的には行われていない		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてその都度対応している。眼科、精神科、歯科など	入居時に協力医に変更して訪問診療を受けている。歯科以外の専門医の受診は、管理者が同行し家族に報告している。急変時も家族に連絡して管理者が対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が最初から最後まで十分に行っている	利用者の入院時には、必ず管理者が付き添い情報提供をしている。入院後も面会に行き病院関係者と協力し合えるように努めている。面会できない時は、電話で情報交換や相談などをして利用者の生活が安心できるよう早目の退院に向けて取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ重度化が予想される場合など特養に早めに申し込みをしてもらうよう促す	入居時に重度化や終末期の方針を説明している。状態の変化に応じて管理者から説明をし、病院や介護施設の情報提供をしながら本人・家族の希望を踏まえて話し合いをしている。転院・転所となるまで事業所の出来る限りの支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防車の訓練を受けている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時など外に入居者が逃げ出したときのケアをお願いしている	夜間想定を含む避難訓練を年2回行っている。昨年コロナ禍で延期していた夜間想定訓練も実施できた。補助金の申請が通り自家発電機を設置することになった。管理者は、災害時の利用者の見守りを近隣住民に依頼して協力体制づくりに努めている。	

グループホームおあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人がいない場合でもさせるという言葉は禁句で、してもらおうという言葉を使うよう徹底している	利用者一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に心がけている。聞こえにくい人に話しかける時は声が大きくなるが、優しい気持ちを忘れないようにして接している。排泄支援の際は、他の利用者に分からないようプライバシーに配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものはありませんかなどと聞く		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態に合わせて個々に取り組んでいる		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることはお願いして手伝ってもらっている	家族などから貰った旬の食材を使って利用者の好みのメニューを聞きながら、食べなれた物を手作りで美味しく作るように工夫している。野菜の下ごしらえや茶の葉の袋入れなど一緒に行っている。出前や花見弁当など食事を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に記録し、繊細な変化も見逃さないようにしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導の下適切に行っている	職員は、口腔ケアの必要性を理解して、毎食後利用者の口腔内の清潔保持の支援に取り組んでいる。定期的に歯科医の訪問診療もあり、口腔状態のチェックやケアの指導・助言を受けている。	

グループホームおあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りにトイレでの排泄を目指し3人で行うことも頻繁にある		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤を使用し、可能な人は湯船にゆっくり入ってもらう。希望があればほぼ毎日入浴が可能		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中自由に行われている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護者が日々の状況を把握し、それに基づき医師に報告し、適切な処方を行っている	職員は、利用者が服薬する薬剤の目的や副作用・用法・用量などの情報を共有し理解して支援している。臨時処方が出た時などに飲み合わせの不安がある時は、直接薬剤師に確認している。利用者の症状に変化があれば管理者が医師に報告して対応している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望があれば飲酒も可能である	年を重ねるごとに利用者の得意なことや出来ることが少なくなっていく中、少しでも役割を見つけ感謝の気持ちを伝えて張り合いに繋がるよう取り組んでいる。お酒を好む人に酒類を提供する事もある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ下で積極的には行われていない	車椅子生活の利用者が多くなり、日常的な散歩が難しくなっているが、近所へ弁当を持って花見に行ったり、初詣や左義長などに出かけたりしている。一度には行けないが、喫茶店や買い物にも利用者の希望にそって外出している。	

グループホームおあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支援する。かえって混乱をきたす場合が多く適切にこちらで管理している		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の多くが重度で行えることができる人がいない		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井で、室温、照明など快適に暮らせるようにしている	居間や廊下の共有空間は、家庭的な雰囲気大切に作品などの飾りは控えめにしている。天井が高くこまめに掃除を行い、明るく清潔で快適に過ごせるように努めている。居間のソファや廊下の奥にテーブルと椅子を置き利用者が自由に過ごせるようにしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のほかにテーブルやいすを配置している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものなど自由に持ち込みが可能である		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをすべてに配置し、車いすにできるだけ頼らぬよう支援している		